

# 崔健歌集(抄)

弓削俊洋

## 一、崔健について

崔健の歌を特徴づけるのは、なんとと言っても鮮烈なメッセージ性である。「虚偽」「奇怪」「空虚」などをキーワードとして用いつつ、崔健は、時代の閉塞状況を歌い、権力者たちを嘲る。

あの日あなたは赤い布で

おれの両目と天を覆い

おれに尋ねた 「何が見える？」

おれは答えた 「しあわせさ！」

あんたが見えない 道も見えない

おれの両手を押さえつけ

あんたは尋ねた 「なに考えてんだ？」

おれは答えた 「あなたの奴隷になることさ！」  
(「赤い布」)

崔健(ツイ・チエン)。一九六一年、北京生まれ。朝鮮族。「中国芸術界の新人類」「中国のジョン・レノン」などと呼ばれる、中国で最も有名、最も過激なロック・ミュージシャン。

十四歳の時からトランペットを吹き始め、高校を卒業後、北京交響楽団へ入団。トランペット奏者として演奏活動を行うかたわら、ローリングストーンズなどの影響を受けて、ギターも弾き始める。

八六年、アルバム『浪子帰』を自費出版。このアルバムは、大きな反響を呼ぶには至らなかったが、続いて発表した曲「今は、何もない」がヒットし、新しい世代の代弁者として注目を浴びるようになる。「新しい長征に向かうロック」も話題になるが、詞の内容が共産党指導部の不興を買って、北京交響楽団を除名される。

その後、欧米人を混じえたバンド「ADO」を結成し、本格的なロック活動を始め、八九年、アルバム『新しい長征に向かうロック』を発表。同アルバム所収の「今は、何もない」「オレは知っている」などの曲は、民主化運動の際、天安門広場に集まる学生たちの愛唱歌だった。

天安門事件後、ADOは解散に追い込まれるものの、「今は、何もない」「オレは知っている」は事件の記録集に収められ、海外に紹介された。まもなく日本人一人を含む新バンドを結成して活動を再開。九〇年二月には、「従頭再来（最初からやり直そうぜ）」と題したロックコンサートを北京で開き、一万五千人を集める。収益金の殆どをアジア大会のために寄付させられることに抗議し、「オレは文字どおりの〃一無所有（何もない）〃だ」と発言、当局の怒りを買う。これ以後、彼のコンサートは、何の予告もなく、突然中止になることが多くなった。

九一年、アルバム『解決』を発表。このアルバムは、冒頭に紹介した「赤い布」のほか、天安門事件の犠牲者への挽歌「最後の一撃」、中国を支配する老人たちを嘲笑する「ナイフのように」、さらに共産党政権を讃える革命歌「南泥湾」をわざわざ収録するなど、諷刺と挑発に富んだものだった。当局は、「最後の一撃」「ナイフのように」の詞を、歌詞カードから削除することで、これに報復した。

同年春、赤い目隠しをして、「赤い布」を歌う崔健をデザインしたTシャツが、自由市場で売り出され、大いに売れ

る。現体制への皮肉をこめたこのTシャツは、たとえば八九年民主化運動の参加者にとって、今なお変わらぬ思いを託せる「ナイフ」となった。

同年夏、「体制批判のTシャツ 当局が販売禁止」（六月一三日付朝日新聞）。  
九二年、これまでの作品十曲を集めた『崔健作品選』を発売し、現在に至る。

## 二、崔健歌集（抄）

「一塊紅布」

那天是你用一塊紅布  
蒙住我雙眼也蒙住了天  
你問我看見了什麼  
我說我看見了幸福

這個感覺真讓我舒服

它讓我忘掉我沒地兒住  
你問我還要去何方  
我說要上你的路

「赤い布」

あの日あなたは赤い布で  
おれの両目と天を覆い  
おれに尋ねた 「何が見える？」  
おれは答えた 「しあわせさ！」

いい気持だぜ

い場所がないってことも忘れたぜ  
どこへ行くのかつて？  
あんたといっしょさ！

看不見你也看不見路

我的手也被你攥住

你問我在想什麼

我說我要你作主

我感覺 你不是鐵

却像鐵一樣 強和烈

我感覺 你身上有血

因爲你的手是熱呼呼

這個感覺真讓我舒服

讓我忘掉我沒地兒住

你問我還要去何方

我說要上你的路

我感覺 這不是荒野

却看不見這土地已經乾裂

我感覺 我要喝點水

あんたが見えない 道も見えない

おれの両手を押さえつけ

あんたは尋ねた 「なに考えてんだ？」

おれは答えた 「あんたの奴隷になることさ！」

あんたは鉄ではないだろう

なのに 鉄のように堅くて強い

体には血が流れてるだろう

だって こんなに手が熱い

いい気持だぜ

い場所がないってことも忘れてたぜ

どこへ行くのかって？

あんたといっしょさ！

ここは荒野じゃないけれど

どういうわけか裂け目が見えない

水を一杯飲みたいけれど

可你的嘴將我的嘴堵住

おれの口は あんたの口が塞いでいる

我不能走我也不能哭

歩くことも泣くこともできない

因爲我身體已經乾枯

おれの体は枯れてしまったから

我要永遠這樣陪伴着你  
因爲我最知道你的痛苦

でもどこまでもついていくぜ

あんたの痛みを 一番知っているのは おれだから

「像 一把刀子」

「ナイフのように」

紅彤彤的心它放着光輝

真つ赤な心が 光を放ち

照得我這雙手紅的殘黑

俺の両手を 照らしているぜ

手中的吉他就像一把刀子

手にしたギターが ナイフのように

它要割下我的臉皮只剩下張嘴

面の皮を剥ぎ取つて 言葉だけを残すのさ

不要着急我的寶貝

焦っちゃだめだよ おばかさん

我要用我的血換你的淚

俺の血を おまえの涙と換えてやる

不管你是老頭子還是姑娘

ジジイだろうと 生娘だろうと

我要剝下你的虛偽看看真的

おまえの虚偽をひつぺがし ほんとの姿を暴いてやるぜ

JIN JIN JIN JIN.....

チン チン チン チン.....

光禿禿的刀子它放着光輝  
照得那個老頭子露出悔恨  
緊皺着眉還高擡着嘴

不知是憤怒還是受罪

不要着急我的寶貝

我們天生就不是爲了作對  
我身子的權利像一把刀子  
它要牢牢地插在這塊土地

JIN JIN JIN JIN……

你赤裸的身子放着光輝

照得你那祖宗三代露出羞愧

你張開了胸懷你還伸出了手

你說你要的就是我的先銳

你在流淚我的寶貝

不知是脆弱還是堅強的美

這時我的心就像一把刀子

它要穿過你的嘴去吻你的肺

むき身のナイフが キラリと光り

ジイさんたちを うろたえさせる

眉をしかめて 口をとがらせ

怒ってるのかい つらいのかい？

焦っちゃだめだよ おばかさん

俺たち 生まれながらの仇じゃないぜ

俺の権利を ナイフのように

この地におすりと突き刺そう

チン チン チン チン……

おまえのハダカが まぶしく光り

ご先祖様を 赤面させる

胸をはだけて 手を伸ばし

おまえは求める 俺の激しさ

泣いているのか おばかさん

ひ弱なのかい 強いのかい？

俺の心は ナイフのように

おまえの口を貫いて おまえの肺へと口づける

「最後一槍」

一顆流彈打中我胸膛

霎那間往事湧在我心上

只有淚水沒有悲傷

如果這是最後的一槍

我願接受這莫大的榮光

哦！最後一槍 哦！最後一槍

不知道有多少 多少話還沒講

不知道有多少 多少歡樂沒享

不知道有多少 多少人和我一樣

不知道有多少 多少個最後一槍

安睡在這溫暖的土地上

朝露夕陽花木自芬芳

哦！只有一句話 哦！留在世界上

(音樂……銃聲……音樂)

不知道有多少 多少話還沒講

不知道有多少 多少歡樂沒享

不知道有多少 多少人和我一樣

「最後の一撃」

一発の流れ弾が ぼくの胸へと命中した

そのとき心に浮かぶのは 懐かしい日々

涙はあるが 悲しみはない

これが最後の銃弾ならば

この栄光を喜んで受けよう

オー 最後の一撃 オー 最後の一撃

言い残したことは数知れず

やり残した喜びかほどか

どれだけの人が ぼくのように

この最後の一撃を浴びただろう

でも今は 暖かい土地で眠ろう

朝露 夕日 花の香り

オー 一言だけを オー 世界に残して

(音楽……銃声……音楽)

言い残したことは数知れず

やり残した喜びかほどか

どれだけの人が ぼくのように

不知道有多少 多少個最後一槍  
 一顆流彈打中我胸膛  
 霎那間往事湧在我心上  
 哦！最後一槍 哦！最後一槍

この最後の一撃を浴びただろう  
 一発の流れ弾が ぼくの胸へと命中した  
 そのとき心に浮かぶのは 懐かしい日々  
 オー 最後の一撃 オー 最後の一撃……

「新長征路上的搖滾」

聽說過沒見過兩萬五千里  
 有的說沒的做怎知不容易  
 埋着頭向前走尋找找自身  
 走過來走過去沒有根據地

「新しい長征に向かうロック」

聞いただけで見たことない 栄光の長征 二万五千里  
 言葉だけでやってはいない つらさなんて知るものか  
 ただひたすらに 前進し 自分を探してみただけ  
 行ったり来たりするだけで ぼくの根拠地見あたらぬ

想什麼作什麼是步槍和小米  
 道理多總是說是大砲轟炸機  
 汗也流淚也落心中不服氣  
 藏一藏躲一躲心說別着急

思ったことはやり遂げた ああ あの頃の八路军  
 道理ばかりを言うだけの ああ 出世した八路军  
 アセをながして 涙ぐむ ところの中は不満だけ  
 逃げ出すことも 難しく 独りつぶやく焦るなよ

問問天問問地還有多少里  
 求求風求求雨快離我遠去

天よ大地よ教えておくれ まだどれくらい行くべきか  
 風よ雨よ お願いだから 早くぼくから離れておくれ



山也多水也多分不清東西  
人也多嘴也多講不清道理

怎樣說怎樣做才真正是自己

怎樣歌怎樣唱這心中才得意

一邊走一邊想雪山和草地

一邊走一邊唱領袖毛主席

「不是我不明白」

過去我不知道什麼是寬闊胸懷

過去我不知世界有很多奇怪

過去我幻想的未來可不是現在

現在才似乎清楚什麼是未來 哦……

過去的所做所爲我分不清好壞

過去的光陰流逝我記不清年代

我曾經認爲簡單的事情現在全不明白

我忽然感到眼前的世界並非我所在

連なる山々さえぎる河で ぼくの目の前まっくら闇だ  
人は多いが無駄口ばかり 道理が何かは教えてくれぬ

何を言っても何しても それこそ正にぼく自身

何を歌いどう歌っても ころのなかは満足さ

歩きながら 思うもの 雪山 そして草野原

歩きながら 歌うもの 偉大な指導者毛主席

「オレは知っている」

昔は 心の広さなんて知るものか

昔は 世界の妙なことを知るものか

昔夢みた未来は 今のことではない

今やつと 未来の姿が見えてきた

昔の自分が 良いかどうか知ったことか

昔のことが 流れ過ぎても知ったことか

昔 簡単だったことが 今ではまるで分からない

目の前の世界は オレの世界なんかじゃない

廿多年來我好像只學會了忍耐  
 難怪姑娘們總是說我不實實在在  
 我強打起精神 從睡夢中醒來  
 可醒來才知道這個世界變化真快 哦……

二十年 ただ耐えることだけ教わった  
 だから 仲間じゃまじめで通ってた  
 勇気を出して 夢から醒めたばかりに  
 この世界 変化は妙なことばかり

放眼着那座座高樓如同那稻麥  
 看眼前是人的海洋和交通的堵塞  
 我左看右看前看後看還是看不過來  
 這個……那個……我越看越奇怪

遠くを見れば 稲穂のようにビルは連なる  
 目の前を見れば 人と車で埋めつくされる  
 右と左も 前も後ろも 見ていられない  
 あれこれ あれこれ ますます妙になる

過去我不知道什麼是寬闊胸懷  
 過去我不知世界有很多奇怪  
 過去我幻想的未來可不是現在  
 現在才似乎清楚什麼是未來 哦……

昔は 心の広さなんて知るものか  
 昔は 世界の妙なことを知るものか  
 昔夢みた未来は 今のことではない  
 今やっと 未来の姿が見えてきた

不是我不明白 這世界變化快  
 不是我不明白 這世界變化快

オレは知っている 変化は速い  
 オレは知っている 変化は速い

「寂寞就像一團烈火」

你看我 我看你 彼此相對沈默  
我的心 在呼喚 夕陽已經沈落  
夕陽中 你遠去 拖着長長的身影  
喂 請你慢走 我就要說

要說的話太多 還不如相對沈默  
我的心已不在呼喚 它隨太陽一起沈落  
夕陽中我也遠去 拖着彎彎曲曲的身影  
喂 請別拉着我 我什麼什麼都不說

也許這就是生活 失去一切才是歡樂  
相聚時沒有天地 分手後又無事可做  
不敢想將來和過去 只得獨自把酒喝  
忘掉白天和黑夜 沒有正確也沒有過錯

如果你在眼前坐着 我要全部對你說  
雖然說不說都一樣 雖然你也沒有聽着

「炎のような寂しさ」

おれとおまえは見つめ合い じつと黙っているばかり  
おれの心は呼んでいるのに 日はもう沈む  
夕日のなかを おまえが遠ざかる 長い影を引きずって  
おーい 気をつけて行け これだけ言おう

言いたいことはたくさんあるけど だまっている方が まし  
おれのころも 呼んではいけない 夕日と一緒に消えるのさ  
夕日のなかを おれも行く 歪んだ影を引きずって  
おーい じゃまをするなよ 話なんて なにもない

これが生きるということか すべてをなくして喜びを知り  
一緒にいられる場所もなく 別れた後にはやることがない  
未来も過去も知ったことか ただ独りで飲むだけさ  
昼も夜も 忘れてしまおう いいも悪いも関係ない

おまえがそばにいるのなら おれのすべてを話してみたい  
話してみても ムダだけだ おまえは何も聞いてないから

寂寞就像一團烈火 像這天地一樣寬闊  
燃燒着痛苦和歡樂 還有我身上的枷鎖

炎のような寂しきよ 天地のように広がって  
苦しみ喜び足かせを どれもみんな燃やしてしまえ

要說的話太多 還不如相對沈默  
我的心已不在呼喚 它隨太陽一起沈落  
夕陽中我也遠去 拖着彎彎曲曲的身影  
喂 請別拉着我 我什麼都想說

言いたいことはたくさんあるけど だまっている方が まし  
おれのこころも 呼んではいけない 夕日と一緒に消えるのさ  
夕日のなかを おれも行く 歪んだ影を 引きずって  
おーい じゃまをするなよ 話したいことなんてない

「這兒的空間」

「こ こ」

打不開天 也穿不過地  
自由不過不是監獄  
你離不開我 我也離不開你  
誰都不知道到底是愛還是賴

天を裂き 大地を貫く力もない  
自由の意味はただひとつ 監獄よりは少しまし  
おまえは俺から逃げられない 俺もおまえから離れられない  
それが愛か怠惰かは 誰にも分かりはしない

錢就是錢 利就是利  
你我不過不是奴隸  
你只能爲了我 我也只能爲了你  
不過不是一對一對兒蝦米

カネがどうした 儲けがなんだ  
おまえと俺の人生は 奴隸よりはましなだけ  
おまえと俺にできるのは ただお互いに尽くすこと  
おまえと俺の人生は エビよりちよつぴりましなだけ

這兒的空間 沒什麼新鮮

就像我對你的愛情裡沒什麼秘密

我看着你 曾經看不到底

誰知進進出出才明白是無邊的空虛

就像這兒的空間裡

想的都沒說 說的也都没做

樂的就是彈吉他爲你唱個歌

你別一會兒哭 你也別一會兒笑

我是什麼東西你早就知道

天是個鍋 周圍是沙漠

你是口枯井 可越深越美

這胸中的火 這身上的汗

才是真的太陽 真的泉水

這兒的空間 沒什麼新鮮

就像我對你的愛情裡沒什麼秘密

ここには かわったことがない

俺の愛に どんな秘密もないように

おまえを見ても なんにも見えない

おまえを抱いた その後は

ことと同じ 果てしない空虚

思いを告げることもなく 言葉は言葉で終わるだけ

いまの俺の喜びは おまえのためにギターをつまびき歌うこと

愛する人よ泣かないで 俺のことを笑うなよ

おまえは知っているだろう 俺がどんな男かを

天はナベ まわりは砂漠

おまえは枯れた井戸 でも体の奥にはパラダイス

その胸の火 体の汗

それこそ太陽 それこそ泉

ここには かわったことがない

俺の愛に どんな秘密もないように

我看着你 曾經看不到底  
 誰知進進出出才明白是無邊的空虛  
 就像這兒的空間裡

おまえを見ても なんにも見えない  
 おまえを抱いた その後は  
 ここと同じ 果てしない空虚

「快讓我在這雪地上撒點兒野」

「氷の世界」

我光着膀子 我迎着風雪  
 跑在那逃出醫院的道路上  
 別攔着我 我也不要衣裳  
 因為我的病就是沒有感覺

裸の肩で 風を切り  
 病院から 抜け出して走る  
 邪魔はするなよ 服もいらぬ  
 なにも感じない それが俺の病氣だから

給我點兒肉 給我點兒血  
 換掉我的志如鋼和毅如鐵  
 快讓我哭 快讓我笑  
 快讓我在這雪地上撒點兒野

肉をくれ 熱い血をくれ  
 鉄より堅い気持ちほしい  
 泣いてみたいよ 笑ってみたい  
 冷たく凍ったこの世界 早く自由にさせてくれ

因為我的病就是沒有感覺

なにも感じない それが俺の病氣だから

快讓我在這雪地上撒點兒野

冷たく凍ったこの世界 早く自由にさせてくれ

我沒穿着衣裳我也沒穿着靴

服も着てない 靴も履かない

却感覺不到西北風的強和烈

なのに風の強さは感じない

我不知道我是走着還是跑着

歩いてるのか走ってるのか分からない

因為我的病就是沒有感覺

何も感じない それが俺の病気だから

給我點兒刺激 大夫老爺

刺激をください お医者様

給我點兒愛 我的護士姐姐

愛をおくれよ 看護婦さん

快讓我哭要麼快讓我笑

泣いてみたいよ 笑ってみたい

快讓我在這雪地上撒點兒野

冷たく凍ったこの世界 早く自由にさせてくれ

因為我的病就是沒有感覺

何も感じない それが俺の病気だから

快讓我在這雪地上撒點兒野

冷たく凍ったこの世界 早く自由にさせてくれ

「不再掩飾」

「もうごまかさない」

我的淚水已不再是哭泣 我的微笑已不再是演戲

もう 二度と泣くものか もう 無理には笑うまい

你的自由是屬於天和地 你的勇氣是屬於你自己

キミの自由は天と地のもの キミの勇氣はキミ自身のもの

我没有錢 也没有地方 我只有過去

我說得多 也想得多 可越來越沒主意

我不可憐 也不可恨 因為我不是你

我明白拋棄 也明白逃避 可就是無法分離

ぼくには過去があるだけで お金もないし い場所もない

あれこれ話し考えすぎて もうすっかりお手上げだけど

憐れまないし恨みもしない しょせん二人は別物だから

逃げ出したいとは思うけど ここから離れるすべがない

我的眼睛將不再看着你 我的懷念將永遠是記憶

我的自由也屬於天和地 我的勇氣也屬於我自己

我的忍受已不再是勞累 我的真誠已不再是淚水

我的堅強已不再是虛偽 我的憤怒已不再是懺悔

我没有錢 也没有地方 我只有過去

我說得多 也想得多 可越來越沒主意

我不可憐 也不可恨 因為我不是你

我明白拋棄 也明白逃避 可就是無法分離

もう逢うことはないけれど 忘れるものか キミのこと  
キミの自由は天と地のもの キミの勇氣はキミ自身のもの

苦勞はすでに むくわれて 裏切りのため泣くこともない

強さはすでに 本物だから 怒りのために 懺悔はしない

ぼくには過去があるだけで お金もないし い場所もない

あれこれ話し 考えすぎて もうすっかりお手上げだけど

憐れまないし恨みもしない 二人はしょせん別物だから

逃げ出したいとは思うけど ここから離れるすべがない

我的淚水已不再是哭泣 我的微笑已不再是演戲

你的自由是屬於天和地 你的勇氣是屬於你自己

もう 二度と泣くものか もう 無理には笑うまい

キミの自由は天と地のもの キミの勇氣はキミ自身のもの



「從頭再來」

我腳踏着大地 我頭頂着太陽

我裝做這世界唯我獨在

我緊閉着雙眼 我緊靠着牆

我裝做這肩上已沒有了腦袋

「我不願離開 我不願存在

我不願活得過分實實在在

我想要離開 我想要存在

我想要死去之後從頭再來」

那煙盒中的雲彩 那酒杯中的大海

統統裝進我空空的胸懷

我越來越會胡說 我越來越會沈默

我越來越會裝做我什麼都不明白

「我難以離開 我難以存在

我難以活得過分實實在在

我想要離開 我想要存在

我想要死去之後從頭再來

「やりなおそう」

大地を踏みしめ 太陽をいただき

この世の主人を 氣取つてみせる

両目を閉じて 壁にもたれて

空っぽの頭を 氣取つてみせる

「離れたくない 残りたくない

正直ものには なりたくない

それでもおれは そうしたい

生まれ変わつてやり直したい」

タバコの煙と グラスの酒を

空っぽの胸に 注いでくれよ

でたらめばかり言いすぎて 話すことさえ嫌になり

なんにも分からぬ ふりをするだけ

「離れられない 残れない

正直すぎでは生きられない

それでもおれは そうしたい

生まれ変わつてやり直したい」

看看前後左右 看看男女老少

看看我那到了頭的金光大道

感覺不到心跳 感覺不到害臊

感覺不到自己想還是不想知道

「我難以離開 我難以存在

我難以活得過分實實在在

我想要離開 我想要存在

我想要死去之後從頭再來」

「一無所有」

我會經問個不休 你何時跟我走

可你却總是笑我 一無所有

我要給你我的追求 還有我的自由

可你却總是笑我 一無所有

哦……你何時跟我走

哦……你何時跟我走

脚下這地在走 身邊那水在流

周子を見ても 人と会つても

理想の道さえ 極めたけれど

ときめく心は今はなく 恥ずかしいとも思えない

そんな心が欲しいのか 今のおれには分からない

「離れられない 残れない

正直すぎでは生きられない

それでもおれは そうしたい

生まれ変わつてやり直したい」

「今は 何もない」

いつも 繰り返し聞いてきた 俺について来てくれるかいつて

なのにおまえは、笑つてばかり ……今は、何もない

俺の探しているものも 俺の自由も くれてやる

なのにおまえは 笑つてばかり ……今は、何もない

オー 俺について来てくれるかい

オー 俺について来てくれるかい

あしもとの大地は動いてる まわりの水は流れてる

可你却總是笑我 一無所有

爲何你總笑個沒够

爲何我總要追求

難道在你面前 我永遠是一無所有

哦……你何時跟我走

哦……你何時跟我走

告訴我我等了很久 告訴我我最後的要求

我要抓起你的雙手 你這就跟我走

這時你的手在顫抖 這時你的淚在流

莫非你正在告訴我 你愛我一無所有

哦……你這就跟我走

哦……你這就跟我走

脚下這地在走 身邊那水在流

哦……你這就跟我走

なのにおまえは 笑ってばかり ……今は、何もない

どうしてなんだい おまえはいつも笑ってばかり

どうしてなんだい 俺は何かを探してばかり

まさかそうではないだろう いつまでたっても何もないなんて

オー 俺について来てくれるかい

オー 俺について来てくれるかい

俺はおまえを待ちくたびれた これが最後のお願いだ

おまえの両手をつかんであげよう さあ、俺と行こう

おまえの両手が震えてる おまえの涙が溢れてる

まさか本気じゃないだろう 何もないのが好きなんて

さあ、俺と行こう

さあ、俺と行こう

あしもとの大地は動いてる まわりの水は流れてる

さあ、俺と行こう

## 三、崔健作品集、テキスト、資料

## (一) 崔健作品集目錄(抄)

## 1 『崔健 浪子歸』

香港BGM公司

一九八九年

- 流浪的歌手 (黃小茂詞 崔健曲)      ○ 生活 (黃小茂詞 周曉明曲)      ○ 拿錯的雨傘 (黃小茂詞 崔健曲)
- 你不要走 (黃小茂詞 崔健曲)      ○ 浪子歸 (黃小茂詞 崔健曲)      ○ 新潮 (黃小茂詞 周曉明曲)
- 對 視 (黃小茂詞 崔健曲)      ○ 爲什麼 (黃小茂詞 崔健曲)      ○ 在遠方 (德君詞曲)
- 分手的時候 (黃小茂詞 劉元·周曉明曲)

## 2 A 『崔健專輯 新長征上的搖滾 (崔健and ADO)』 中国旅遊聲像出版社

一九八九年

- ① 新長征路上的搖滾 (崔健詞曲)      ② 不再掩飾 (崔健詞曲)      ③ 讓我睡個好覺 (崔健詞曲)
- ④ 花房姑娘 (崔健詞曲)      ⑤ 假行僧 (崔健詞曲)      ⑥ 從頭再來 (崔健詞曲)
- ⑦ 出走 (崔健詞曲)      ⑧ 一無所有 (崔健詞曲)      ⑨ 不是我不明白 (崔健詞曲)

## B 『崔健 一無所有——胸懷全中国』

台灣可登有聲出版社

一九八九年

## C 『崔健 新長征上的搖滾』

中国旅遊聲像出版社

一九九一年

## 3 A 『崔健 解 決』

中国北光声像芸術公司

一九九一年

- ⑩ 解決 (崔健詞曲)      ⑪ 這兒的空間 (崔健詞曲)      ⑫ 一塊紅布 (崔健詞曲)
- ⑬ 投機分子 (崔健詞曲)      ⑭ 像一把刀子 (崔健詞曲)      ⑮ 最後一槍 (崔健詞 崔健·王貴曲)
- ⑯ 寂寞就像一團烈火 (崔健·黃小茂詞 崔健曲)      ⑰ 快讓我在這雪地上撒點兒野 (崔健·王勇詞 崔健曲)

○從頭再来(2A所収)

○南泥湾

B 『崔健 解決』

台湾可登有声出版社

一九九一年三月

4 『崔健 作品選』

珠海特区音像出版社

一九九二年

○浪子歸 ○拿錯的雨傘(1所収)

○出走

○花房姑娘

○假行僧

○一無所有

○不再掩飾(同2A)

○最後一槍 音樂編

○一塊紅布

○南泥湾(同3A)

(二) テキストについて

右に挙げた作品集の中で、崔健自身の作詞した曲は十七曲である(2A所収の9曲①～⑨、3A所収の8曲⑩～⑰)。本稿では、その中から十一曲を選んで、原文と日本語訳を掲載した。

なお、大陸で発行された2Aおよび3Aには、それぞれ台湾版の2Bおよび3Bがあり、一部に歌詞の異動も認められる。テキストとしては、削除や作意的な書換えの可能性が少ない台湾版の歌詞カードを使用した。

但し、「最後一槍」のテキストとしては、「最後一槍、一無所有——大陸流行頌道」(発売元、発行年共不明。崔健の歌は「一無所有」と「最後一槍」を収録)を使用した。3A、3B、4に収録されている曲は、いずれも最後の一小節のみを歌う「音楽編」であり、3Bの歌詞カードにもその部分しか印刷されていないからである。

(三) 崔健の資料について

崔健に関する資料は少ない。冒頭の崔健紹介は、以下の資料、特に②③⑧⑨を参照して書いたものである。

また、資料①には、白井啓介氏による「一無所有」「不是我不明白」の訳が収録されており、本文中の当該曲の訳は

基本的にそれに従っている点、さらに資料②には「不再掩飾」「一塊紅布」「像一把刀子」の抄訳が収録されており、これも参考にしている点をお断りしておく。

## 【日 文】

- ① 『火種』（ジェレミー・バーメー／ジョン・ミンフォード編 刈間文俊他編訳 凱風社 八九年十月二五日）
- ② 従頭再来——最初からやり直そうぜ（『週刊プレイボーイ』 集英社 九〇年六月二六日号）
- ③ 体制批判のTシャツ 当局が販売禁止（『朝日新聞』 九一年六月一三日）
- ④ 怪しい中国 あぶない中国（『マルコポーロ』 文芸春秋社 九二年七月号）
- ⑤ 字幕でみる中国映画——北京、你早（2）（白井啓介 『中国語』 内山書店 九二年七月号）
- ⑥ 『革命寸前——天安門事件・北京大生の手記』（沈彤著 石戸谷茂訳 草思社 九二年三月三一日）

## 【中 文】

- ⑦ 『天安門 一九八九』（台湾聯合報編輯部編輯 台湾出版事業公司 八九年三月）
- ⑧ 『崔健 浪子歸』解説（香港・BGM公司 八九年）
- ⑨ 『崔健 一無所有』解説（台湾・可登有聲出版社 八九年）
- ⑩ 再回首——一九九〇（金兆鈞著 『流行歌曲』 九一年二期）
- ⑪ 『崔健 解決』解説（台湾 可登有聲出版社 九一年三月）
- ⑫ 反叛文化 大陸的搖滾一族——訪《血染的風采》作詞人陳哲（香港 『九十年代』 九一年九期）